

知らぬかった！白糖

広報しらぬか 1000 号記念

調査員の
しらぬかまで。
よろしくお願いします。

広報しらぬかが できるまで



毎月、皆さんの元へお届けしている『広報しらぬか』が創刊されたのは町制が施行された昭和25年11月1日、その70年後となる今年1000号を迎えました！とは言っても、1年12回の発行で70年の計算だと840号にしかならないはずなのですが、調べてみると、月に2回発行していた時期もありました！なるほど納得！

そこで今回はこの『広報しらぬか』が毎月どのように作られているのかをご紹介します。

現在、広報の制作を担当しているのは「企画財政課地域交流係」。以前は「総務課広報統計係」という名称でした。いろいろな地域に出て行って皆さんとの交流を広げ、町の話題を集めることを目的にするということでも平成8年の機構改革の際に現在の係名になりました。

広報紙の編集は基本的に職員2人でを行っています。そして、私は広報支援員（非常勤職員）として、この「知らぬかった！白糖」などのページを担当し、広報紙の作成に携わっています。

職員は記事の題材選びや取材、写真撮影、文章作成はもちろん、パソコンのデザインソフトを使用し、紙面のレイアウトやデザイン

も全て行っています。土日や祝日はイベントがあるので撮影に出かけることもあります。

本紙を作る手順としては、毎月最初に役場の各担当係から「暮らしの情報」や「掲示板」などに掲載する記事を募集し、内容によって掲載枠を決めていきます。

「特集記事」は、皆さんに興味を持って読んでもらえるのはどんな記事だろうと毎月アイデアを出し合いますが、一度で決まることは少なく、アイデアが出ない時は口数も減ります（笑）

テーマが決まれば、そこから取材の開始です。テーマに関わる情報収集や、関係者にインタビューをして、記事にまとめていきます。原稿がほぼ出来上がったところで、職員間でのチェック（校正作業）を行い、毎月20日前後に印刷会社に原稿を送り（入稿）、同日夕方に印刷会社を持つてくる仮印刷したもの（刷り）で最終チェックを行います。そして、印刷・製本され、毎月25日の朝に完成したものが届き、それを発送、配達しています。

広報を月に2回発行していた頃は、ワープロもパソコンもなく、全て手書きで、カメラもフィルムという時代でしたので、その頃に

比べると本当に便利な時代になったと思います。

しかし、まだ苦労はあります。行事やイベントの取材は毎年決まったものもありますが、ここ数年一番大変なのが花火大会の花火の撮影です。真っ暗な中で次々と揚がる花火の撮影にはそれなりのテクニックが必要なのですが、1年に1度しかないので、いつも緊張しながらのぶっつけ本番です。暗がりですらシャッターを押し、あとで確認すると、使える写真がほとんどないという事態も起こります。そんな苦労もあるということを知って花火の写真を見ていただけるとうれいす（切望）

そして、表紙の写真については「笑顔」をテーマにしています。町の皆さんの笑顔を撮るべく、必死にカメラをかまえていますので、ぜひ笑顔で撮影にお応えいただけたいと思います。

「楽屋オチ」について
「笑顔」をテーマにしています。

町の皆さんの笑顔を撮るべく、必死にカメラをかまえていますので、ぜひ笑顔で撮影にお応えいただけたいと思います。



「楽屋オチ」について
誰が書いているの？

毎号の最後にある「楽屋オチ」が始まったのは平成5年5月。編集担当が唯一、自分の名前（イニシャル）で書く枠です。それまでは「コーヒータム」という名の編集後記でした。